

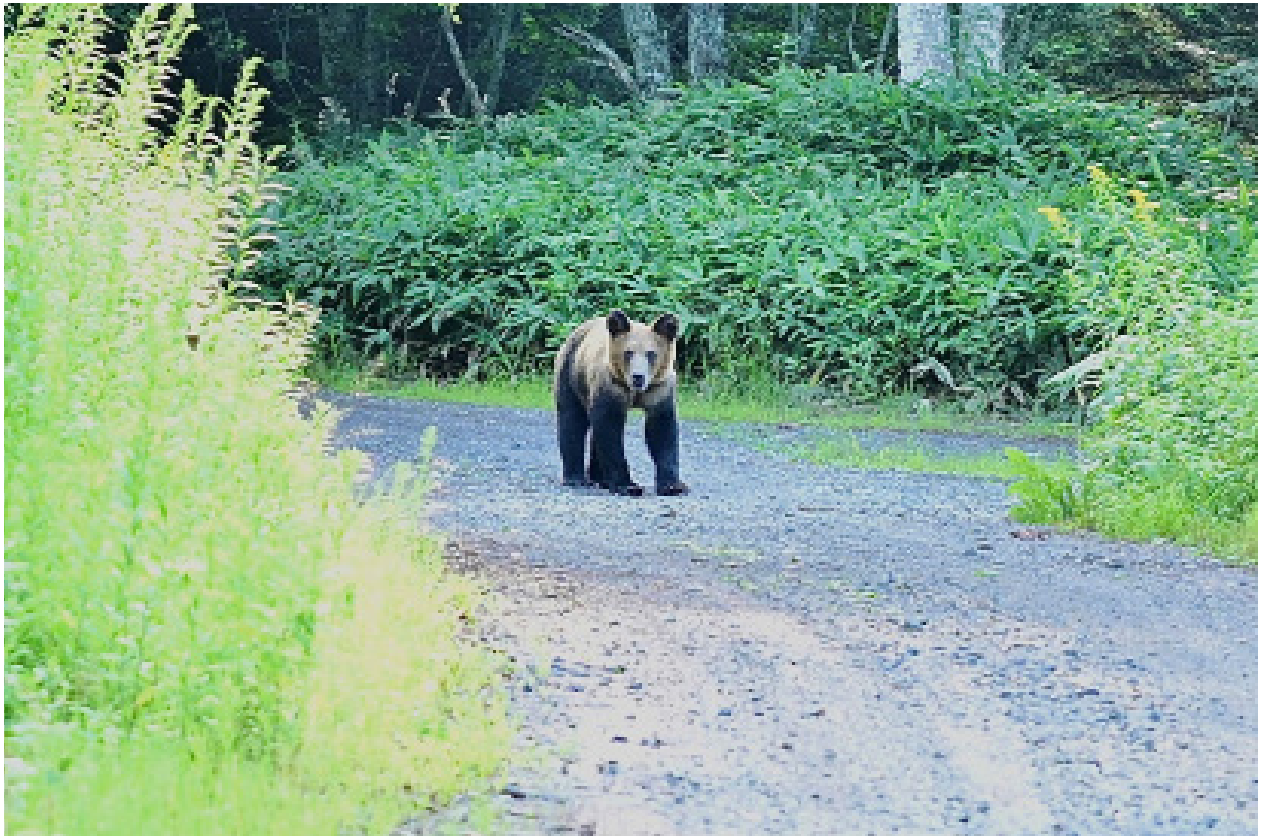
月刊 やちまなこ

2026. 9.15 発行

No.346

9月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



ヒグマ [*Ursus arctos yezoensis*]

夏の終わりが近づき、キノコ採りなどで山に入る機会も増えてくる。身近に見える裏山も、実はヒグマが暮らす領域。一瞬の気のゆるみで、突然、丸腰のままヒグマと向き合うことになる。

今回も、そんな山の中での出会いだった。

距離を保ちながら、写真を撮ったところで、ヒグマはこちらへ走り出すそぶりを見せた。頭を過ぎったのは小学生の頃に先生が教えてくれた言葉。「熊にばったり出逢ったときに大切なことは、最後まで目を逸らさないこと。恐れず騒がず、静かに後ずさりをするのです。憶えておきなさい。」人には人の、熊には熊の棲む世界がある。それぞれの領域へ、お互いに帰ってもらうように促すのだ。

どのくらいの時間が過ぎただろうか。静かに遭遇した場所を覗きこむと、もう、そこに裏山の住民の姿はなかった。



塘路フィールドノート【8/15～9/14】

【野鳥・爬虫類】

お盆が過ぎて一気に気温が落ち着いた塘路湖畔だが、野鳥は少なく撮影は進まなかった。今季一番の慶事は32歳の雌が2年ぶりに幼鳥を1羽育てたこと。ただ人を怖がらず、お構いなしで車道にも出てくるので困ったものです。



アカゲラ幼鳥♂（塘路湖畔）

コアカゲラと紛らわしいがアカゲラの幼鳥は頭頂が赤く雄は成鳥になると後頭部だけが赤くなる。キツツキ科



タンチョウ（釧路湿原）

雌32歳の家族。今季は雛2羽が産まれたが、無事に育ったのは1羽。もう空も飛べるはず。ツル科



ノスリ（達古武）

上空で羽ばたかずに円を描いて滑翔し、地上のネズミなどを探す狩りの名手。冬には開けた農地にも姿を見せる。タカ科



オシドリ（塘路湖）

雌と思われる個体。雄のエクリプスとは嘴の色で判別できる。雄に比べて地味な印象。カモ科



カワセミ（釧路川）

魚を捕るために水中へ飛び込む際、目を保護する透明な膜「瞬膜」を閉じる。嘴が長いのも、水中の獲物を狙うのに適した形。カワセミ科



ジムグリ（塘路原野）

「地潜り」からその和名がある。ドガリネズミや野鼠の巣に潜り幼獣を食べる。幼蛇は警戒色だが無毒で大人しい。ナミヘビ科

【植物・菌類】

今年も鮮やかな花の季節は、あっという間に終わった気がしています。キノコはまとまった雨が意外と少なく、夏キノコは不発。8月末に大雨が続いたため、秋のキノコには期待が持てるかもしれない？！



ハンゴンソウ (反魂草)

秋に黄色い花を咲かせる。漢字名の由来は「死者の魂を呼び戻す」という意味があるとされる。キク科



カラコギカエデ (鹿子木楓)

種子が紅く色付いてきた。実には翼があり、風に乗って遠くへ種子を運ぶ。ムクロジ科



ツククサ (露草)

朝に咲いた花は昼にはしぼむ一日花。青い花弁は古くから染料にも利用された。ツククサ科



エゾトリカブト (蝦夷烏兜)

強い神経毒がある日本三大毒草の1つ。釧路湿原には葉の裂片が細い基準亜種カラフトブシが多い。キンボウゲ科



ヤマブドウ (山葡萄)

秋に黒紫色に熟し、酸味が強いが果実酒やジャムにも利用される。花言葉「思いやり」ブドウ科



ゴボウ (牛蒡)

花は一見アザミ類に似るが葉が丸い。根を根菜とするのは日本や朝鮮半島など一部の地域のみ。ヨーロッパ原産。キク科



ツリガネニンジン (釣鐘人参)

根が朝鮮人参に似ていることと、釣鐘形の花を咲かせることが名前の由来。若芽は山菜として「トトキ」の名でも親しまれる。キキョウ科



フクロツルタケ (袋鶴茸)

「白い悪魔」と呼ばれる猛毒キノコのひとつ。根元に袋があり笠の下にツバと呼ばれる幕を欠く。笠の表面は淡褐色のウロコ状。テングタケ科



クロニガイグチ (黒苦猪口)

こんなに苦いものがあるのかと思うくらい苦いキノコ。笠はヤマドリタケモドキに似るが柄に網目の造形がない。食不適キノコ。イグチ科

【昆虫】

昨年、鳴き声をほとんど聴かなかったコエゾゼミは、結果、全道的なエゾゼミ類の不発であったことが分かった。今季は昨年に羽化を思いとどまった個体群と、今季成熟した個体群が同時に羽化して多産年となった。



カブトムシ (塘路湖北岸)

クワガタムシが減ってくるお盆過ぎの昆虫酒場にはカブトムシが増えてくる。国内移入種。コガネムシ科



トノサマバッタ (塘路湖畔)

1度飛ぶとゆうに50mは飛ぶ。棲息環境によって枯草色の個体も出現する。減少傾向。バッタ科



ルリボシヤンマ (塘路湖畔)

羽化したばかりの雄。これから成熟する過程で斑紋や眼が綺麗な碧色になっていく。ヤンマ科

◎森林の仕組みについて学びました。

8月29日(土)は、サルボ遊歩道にて森林の仕組みについて学ぶ観察会を実施しました。サルボ遊歩道にて、森林の仕組みについて学ぶ観察会を実施しました。はじめに資料を配布し、森林の定義や基本的な知識について学んだ後、「森林の遷移」「森林生態系の模式図」を見ながら、遊歩道を登り始めました。ミズナラ林では、なぜ立ち並ぶ木々の太さがそろっているのか、また、二次遷移の過程でなぜミズナラが優位に立つのかなど、森林の成り立ちについて解説を聞きながら観察しました。その後、本来はニレ科の樹木に生えるタモギタケが、サクラ(バラ科)の幹から発生している珍しい現象を皆で観察しました。また、オオバボダイジュとシナノキ、イタヤとベニイタヤの見分け方について、実際に葉を拾って比較しました。さらに、ツルウメモドキなどのつる植物は、種類によって幹に巻きつく方向が決まっていることや、ヤチダモやオニグルミの種子や果実が、どのように親木から遠くへ運ばれていくのかなど、森林における世代交代の仕組みについても学びました。植物が生き残り、次の世代へ命をつなぐために備えている、さまざまな生存戦略に参加者は興味深く耳を傾けました。最後はサルボ展望台に登り、ホウノキやオオバボダイジュの実を観察。さらに、種子が風に乗って運ばれる仕組みを実際に確かめる実験も行い、楽しみながら森林の仕組みについて学びました。

参加者 12 名



解説風景



サクラからタモギタケ

10月の自然ふれあい行事

事前の申込が必要です。

森とキノコの不思議な関係

[日 時] 10月3日(土) 10時～12時

[定 員・参加料] 15名 無料

[開催場所] シラルトロ湖・蝶の森周辺

◎申込・問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで

いきものスタンプでトートバッグをつくろう

[日 時] 10月17日(土) 13時～15時

[定 員・参加料] 15名 600円

[開催場所] シラルトロ湖・蝶の森周辺

◎申込・問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで

絶滅危惧種ニホンザリガニを探せ！

[日 時] 10月4日(日) 10時～12時

[定 員・参加料] 15名 無料

[開催場所] 温根内ビジターセンター

◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンターまで
(0154-65-2323)

秋の紅葉を見に行こう

[日 時] 10月11日(日) 10時～12時

[定 員・参加料] 15名 無料

[開催場所] 温根内ビジターセンター

◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンターまで
(0154-65-2323)

◆日出・日入時間 8/15(4:27,18:28). 8/31(4:45,18:02).9/14(5:01,17:35)

～ 指導員のひとり言 ～

■ 今年の夏は、なんだか落ち着かない夏でした。

全国各地で線状降水帯による大雨が相次ぎ、多くの地域で大きな被害が出て、ここ釧路管内でも八月末には激しい雨に見舞われました。被害に遭われた地域の方々が、一日も早く普段の暮らしを取り戻せることを願うばかりです。

そんな雨が過ぎたと思えば、もう九月。暑い暑いと言っていたのに、夏が終わると思うと少し寂しいもの。季節の移ろいが、年々早くなっているように感じるのは私だけでしょうか。もう少しだけ、夏の湿原を眺めていたかったと思う、今日この頃です。

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あるこっと

☎ 088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL : 015-487-3003 FAX : 015-487-3004

E-mail : emc@kushiro-shitsugen-np.jp

インスタグラム

torokoemc

開館時間：10：00～17：00

(11～3月：16：00まで)

休館日：毎週水曜日 12月29日～1月3日

入館無料